

令和4年（2022年）の噴火浅根の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

気象衛星ひまわりの観測によると3月27日から28日にかけて噴火が発生した可能性があります。3月29日及びその後数回実施された海上保安庁による上空からの観測では、噴火浅根周辺海域で、噴火に伴うとみられる変色水域、浮遊物等は認められませんでした。

○ 噴火警報・予報の状況、2022年の発表履歴

3月27日23時14分	噴火警報（周辺海域警戒）を発表
3月27日23時18分	火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）を発表

○ 2022年の活動概況

・ 3月26日以前の状況

2021年8月5日に海上保安庁が実施した上空からの観測で、薄い青白色の変色水域が認められましたが、その後の2021年11月11日、2021年12月27日及び3月15日の同観測では、変色水域等の特異事象は認められず、顕著な変化はありませんでした。

・ 3月27日から28日にかけての状況

気象衛星ひまわりの観測によると、3月27日18時頃から噴煙と思われる雲域が見え始め、同日21時頃には、海面上約5,500mの高さまで上がっていることを確認しました。その後、23時30分頃から3月28日03時頃にかけて、噴煙と思われる雲域の高さは海面上約7,000mまで達しました。28日08時20分頃には海面上約3,600mまで低下し、同日14時20分には、噴煙と思われる雲域は確認されなくなりました。これら噴煙と思われる雲域は、気象要因の雲であった可能性も否定できません。

・ 3月29日以降の状況

気象衛星ひまわりによる観測では、噴火は認められませんでした。

3月29日以降、海上保安庁が数回実施した上空からの観測によると、噴火浅根周辺海域では、4月18日に由来や物体は不明な少量の茶褐色の浮遊物が確認されましたが、噴火に伴うとみられる変色水及び浮遊物等は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

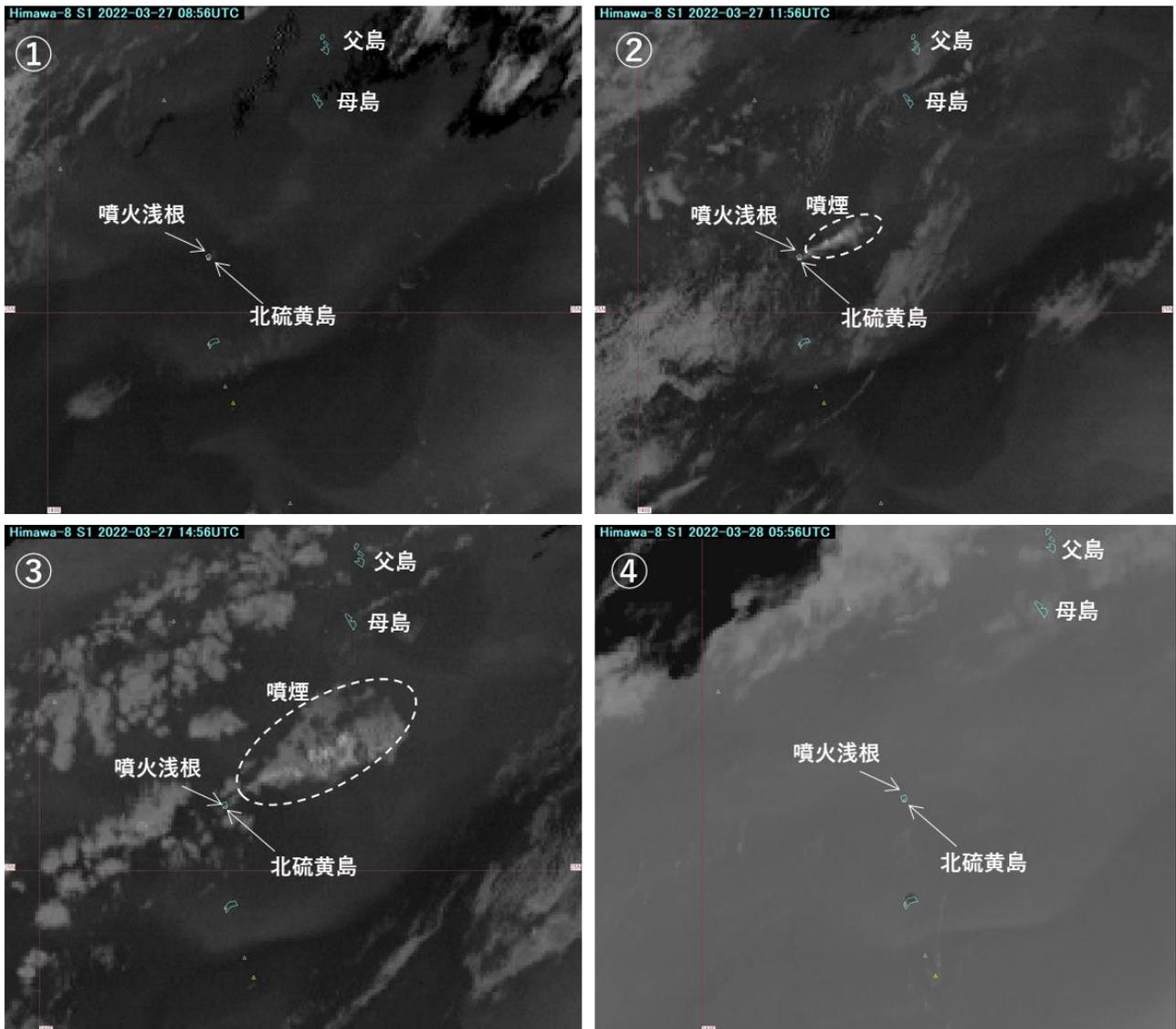


図1 噴火浅根 気象衛星ひまわり(赤外差分画像)による3月27日から28日にかけての状況

- ① 3月27日18時00分頃
 - ・27日18時頃から噴煙の可能性のある雲域が見え始めました。
- ② 3月27日21時00分頃
 - ・27日21時頃には、海面上約5,500mの高さまで上がっていることを確認しました。
- ③ 3月28日00時00分頃
 - ・27日23時30分頃から28日03時頃にかけては海面上約7,000mの高さで推移しました。
- ④ 3月28日15時00分頃
 - ・28日08時20分頃には、噴煙の可能性のある雲域は海面上約3,600mの高さまで低下し、14時20分頃には、確認されなくなりました。



図2 噴火浅根 火口付近の状況

- ・ 海上保安庁が3月29日に上空から実施した観測では、変色水及び浮遊物等の特異事象は認められませんでした。
- ・ その後も海上保安庁が上空から実施した観測では、4月18日に由来や物体は不明な少量の茶褐色の浮遊物が確認されましたが、噴火に伴うとみられる変色水及び浮遊物等の特異事象は認められませんでした。

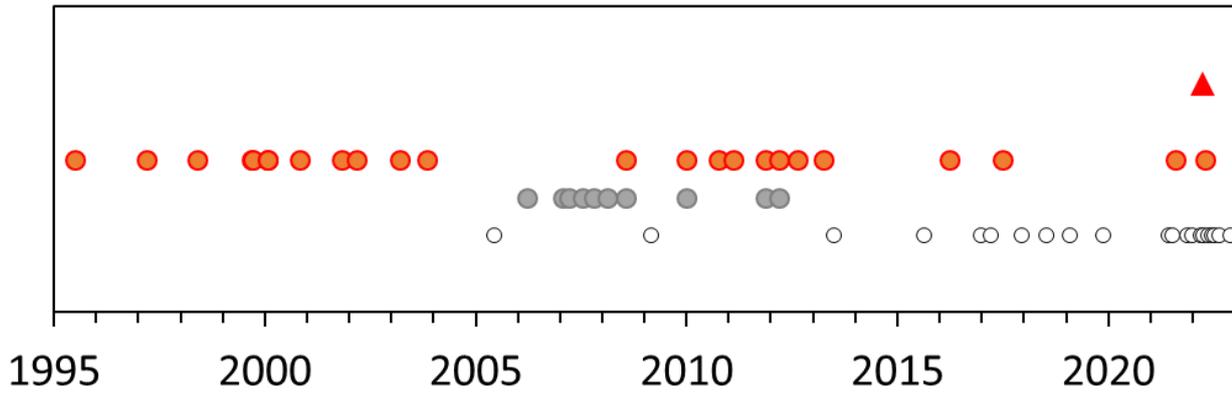


図3 噴火浅根 1995年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火と思われる現象（気象衛星ひまわりによる観測）、●は変色水及び浮遊物の分布が認められた観測、●は気泡の湧出が認められた観測、○は変色水等を含め特段の表面現象が認められなかった観測を示します。海上保安庁及び海上自衛隊の観測による。

- ・ 噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

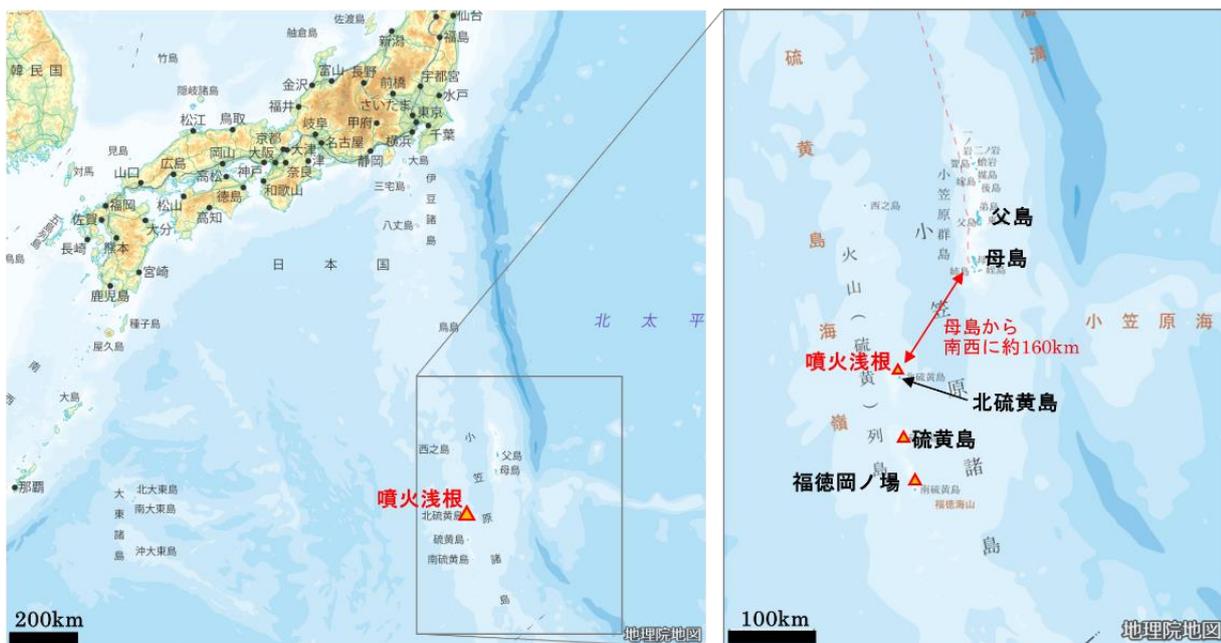


図4 噴火浅根 位置図